『医療の場を整える環境デザイン』のコンセプトで 病室をデザイン！ at HOSPEX Japan 2019

2019年11月20日（水）～22日（金）、東京ビッグサイト（東京都江東区）において「HOSPEX Japan 2019」が開催された。弊社より同年5月『医療の場を整える環境デザイン』を上梓した戸倉蓉子氏が全体監修した「元気になる病室デザインコーナー」は同書の内容を具現化したものである。その模様を紹介する。

株式会社ドムスデザイン代表取締役で一級建築士、看護師の資格を持つ戸倉蓉子さん（写真右）は、コーナー来場者応対の傍らで、会期中にミニセミナーを実施した。

同社チーフデザイナーの中村麻紀さん（写真左）と行ったセッションテーマは「世界の病院と日本の病院を見て考える。医療の場を整える環境デザインとは」であった。

廊下に子どもの写真やアートをちりばめた米国の子ども病院や、同社がデザインした各階エレベーターホールに世界各国のあいさつと地図を描いた日本の病院などを紹介し、参加者に大いに刺激を与えた。

立ち見が出る回もあったミニセミナーだが、参加者は看護職をはじめとした医療職、病院の事務部門、設計会社、建築会社所属が多数を占めていた。感想を聞いてみると「病院改築を控えておりとても参考になった。自院で提案したい」という看護師長や、「患者さんが温かい環境で過ごせるようなアイデアを考えたい」と看護師から声が挙がった。

展示企画は盛況のうちに幕を閉じた。

（撮影・文責：青野昌幸）

住宅設備・建材メーカーやベッドメーカーの協賛により実現した「デザインで元気になる新しい病室」。アクセントウォール（壁を同色にせず、一面は色を変えたり柄を入れる技法）の採用と、枕元に沿った間接照明で落ち着いた温かい病室を提案。

写真中の①～③のデジタルアートは吉岡純希氏が作成した。①はプロジェクターで天井に患者家族の写真を投影。②は時計と患者のバイタルデータ（体温、脈拍、血圧）を患者に付けたセンサーを通じて投影。③は②のデータ変化を反映して形が変わり動くブロブ（BLOB：しみ）。体温が高いと色が変化し、脈が高ければ動きが激しくなる。

壁にフランスのパリにちなんだ絵柄を入れたことで、洗面所が楽しい雰囲気に。

車いす用のトイレは殺風景になりがちだが、壁にデンマークのコペンハーゲンにちなんだ絵柄を入れたことで、明るく温かな雰囲気に。

医療の場を整える環境デザイン

戸倉蓉子著
- A5判・120ページ
- 定価（本体2000円＋税）

ISBN978-4-8180-2188-4
発行　日本看護協会出版会
（TEL：0436-23-3271）

≪主な内容≫
1　建物は女性？ 男性？
2　病院の外壁は白が多い。なぜ？
3　看板はイメージを統一して
4　植物から元気をもらう
5　美しい窓辺は人を癒やす
6　病院に入る緊張を和らげる方法
7　スタッフルームを美しく
8　リラックスできる待合室にするために色彩を工夫
9　待合室の照明と色温度
10　車いすの居場所を決めておく
など全50テーマ！